

進学だより



2021年9月1日 vol.05



■ 入試がいよいよスタート！

大学・短大、専門学校の総合型選抜・AO入試を皮切りに、2022年度入試がいよいよ始まります。

志望校も定まり、3年生は入試に向け準備は進んでいるでしょうか？新型コロナウイルスの影響で、夏のオープンキャンパスも直前で中止になった学校もあり、十分な情報収集ができていない人も多いことと思います。オンライン・オープンキャンパスや各学校のHPなどを通じて、各学校の『入試科目』の傾向（過去問）や、過去の合格最低点、内容の詰まった『志望理由書』を作成するための情報など、できるだけ多くの情報を収集し、それを活用することで、志望校合格に近づいてください。

また、1・2年生にとっても、1年後、2年後の受験のために、興味・関心のある大学・短大、専門学校の2022年度の募集要項をHPなどで見てみてください。在学中に取得した資格・検定によって加点や受験科目が免除される入試、3年間の評定が良ければ受験料や入学金などが免除される制度、逆に、履修科目が不足している場合や評定が良くなければ受験できない入試、また部活動や生徒会活動、探究学習など高校での様々な活動が評価される入試などもあります。つまり、今知っていることが進路実現に近づくこと、逆に今知っていなければ進路実現が不可能になることも少なくはないことをぜひ理解し、学校生活など見直ししてみてください。

■ 秋から伸びる生徒の特長（大学受験パスナビより）

3年生にとっては夏までの基礎固めを経て、ここからどれだけ飛躍できるか重要な局面を迎える秋となります。秋から実力を伸ばし、希望する大学に合格を決める受験生は、学習・生活・メンタル面での取り組みにどのような特長があるのか紹介します。

秋からの学習プラン

- 受験日から逆算した時間管理ができる
- 受験日から逆算し学習の順序立てができる
- 弱点を知った上で学習プランを立てられる

難関大学に合格する生徒とは、試験当日までに着実に弱点を克服し力をつけた生徒です。受験は相対評価ですから、他の受験者より1点でも高ければ合格します。難関大学に合格する生徒は、決められた期日までに求められる力を身につける「見通し」を持っていると思います。そのためには受験までに時間がどれくらいあるのか、志望校が求めるレベルはどの程度なのか、いつまでに基礎を身につけ、応用に入るのかを考えている生徒が多いです。そしてそのような生徒は、自分の弱点やまだ学習が不十分な箇所もよくわかっています。

秋からの共通テスト対策

- 基礎知識を前提に、思考過程を重視する
- 演習を繰り返し、時間配分や形式に慣れる
- 2次試験対策につながる意識を持つ

共通テストは、知識や解法を理解した上でそれらを活用する力や思考プロセスが問われます。思考力・判断力・表現力とともに、複数の資料から必要な情報を読み取り、分析・整理する情報処理能力も問われます。演習では、はじめは制限時間を決めずにじっくり解き、知識・技能の定着を図りましょう。その後、時間内に解く練習とマークシート形式に慣れる練習を重ねます。マークシート形式の場合でも、答えを塗るだけでなく、思考プロセスをノートなどにメモしておきましょう。論理的思考力や表現力が問われる2次試験対策につながります。

2次試験対策

- 過去問の前に基礎固めと苦手克服をする
- 論理的思考力・記述力を身につける
- 過去問を計画的・効果的に活用する

2次試験対策として過去問の活用は大切ですが、まったく歯が立たないようでは時間の無駄です。まずは、過去問を解くための前提となる知識を身につけることを優先しましょう。ただし、秋の早い段階で一度過去問を見ることによって傾向をつかむことは必要です。そして、ある程度力がついてきたら過去問を繰り返し解けば、頻出分野が見えてきます。2次試験までに、最低でも5年分は過去問に取り組むように計画を立てましょう。その際、時間配分や「どの問題で何点得点できるか」など細かく分析し、記述問題は添削指導を受けることも大切です。

秋からの生活

- 「スキマ時間」を「学習時間」に変える
- 脳と体を本番の試験時間に合わせる
- 睡眠時間はしっかり確保する

受験は「あと1分」「あと1点」の積み重ねで成功と失敗が分かれます。日ごろ早起きでまずポーツとしていませんか？ そんなスキマ時間も、積算すると結構な時間になるものです。また、「4時間睡眠の人は合格し、5時間睡眠の人は失敗する」と言われた時代もありましたが、それも今は昔。睡眠時間が短いほど勉強ができるという事実はなく、むしろ朝型の人は成績上位層が多いという統計があります。夜にしっかり頭をリフレッシュして、本番の入試が行われる時間帯に最も集中力が持続する脳と体にする。これが秋以降に守ってほしい生活習慣です。

メンタル

- 不安な気持ちとうまく付き合っている
- 適度な気分転換でストレスを解消している
- 体調管理など生活習慣に気をつけている

受験勉強で抱える不安やストレスは、受験生が抱える心の問題として入試が終わるまで続くものです。しかし合格者の多くは、このことをポジティブに受け入れてストレスを溜めないようにしています。成績は相対的なものなので、成績が上がらないように見えるだけで、学力は着実についています。この踏ん張りどころで挫折せずに頑張りましょう。あまりにもストレスが大きい場合は、休養をとるべきです。合格者はメリハリのある行動をとることが上手です。また体調不良は精神不良を招きますので、生活習慣を崩さないようにしましょう。

大学・短期大学・専門学校のテーマ別比較

テーマ①	授業
大学	<p>なんといっても「ゼミ」！研究テーマに沿って調べたことを発表したり、学生同士でディスカッションしたりする、刺激に満ちあふれた授業です。</p> <p>専門分野を学べる専門科目のほかに、教養科目もたくさん用意されているのが大学。高校のように決まった時間割がなく、自分の目標や興味に合う科目を選んで時間割が組めるため、学科が同じ友だちとまったく違う時間割になることもある。</p> <p>また、大教室で数百人の学生が受講する講義など、高校との違いに最初はびっくりすることが多いかも。高校と異なる点はいろいろあるけど、最も特徴的な授業はゼミ(演習)だろう。指導教官のもと、学生自らが研究テーマについて調べ、発表・論議する形態の授業だ。さらに最先端の設備を利用する実験や実習の授業も好奇心を刺激してくれるはず！</p>
短期大学	<p>短期間で専門性の高い科目を学ぶために毎日忙しい時間割だけど、コンピュータスキルや語学力など、実学的な知識・技術が修得できる授業も多くあることが短大の魅力の一つ。</p> <p>専門科目に加え、実学的な科目にも重点を置く短大。大学同様に、自分の興味に合わせて時間割を組めるけど、大学よりも短い期間で専門性の高い科目を学ぶため、大学の学生より忙しい時間割になる場合が多い。また社会の即戦力となる技能を身につける科目を多く取り入れているため、実習の割合が大学に比べて高くなっている。例えば、保育系の学科では幼稚園や保育園、栄養系の学科では病院給食施設などでの実習がしばしば行われている。</p> <p>大学と同じようにゼミを開講する短大もある。興味あるテーマを深く学びたい人は、ゼミがあることを条件に志望校を探してみよう？</p>
専門学校	<p>実際に各業界の現場で用いられている最新設備や専門機器を使った密度の濃い実習が多い。仕事に直結する技術を学ぶ授業が豊富なのは、専門学校ならではの。</p> <p>専門教育が全授業の中で占める割合は8割以上あり、実習をとまなう授業が多い専門学校。例えば医療系の学校は実際の病院で、調理系の学校はレストランで、音楽系の学校は本物の録音スタジオで実習するなど、社会に通用する実践力を身につけられる授業が数多く設けられているのだ。資格取得に必要な知識・技術を学ぶ授業も豊富。そのため、履修科目のうち必修科目の割合が高く、大学や短大に比べある程度固定された時間割になる。</p> <p>実習が授業の中心になるけど、最近ではより深い知識を学ぶためにゼミ(ゼミに近い形の授業)を実施する専門学校もあることを知っておこう。</p>
テーマ②	校舎・施設・設備
大学	<p>広々としたキャンパスに、さまざまな施設・設備を設置。学習・研究のための設備だけではなく、クラブやサークル活動のための施設なども充実している。</p> <p>大学という広々としたキャンパスをイメージする人は多いだろう。その中には100人以上を収容できる大教室、実験・実習室、コンピュータ室、図書館、学生食堂など、学生生活をバックアップするさまざまな施設・設備が整備されている。その内容から、まるで一つの街を構成しているかのように見えるキャンパスを持つ大学もあるほど。</p> <p>膨大な蔵書を抱える図書館、世界レベルの実験室など、学習に活用できる施設が充実しているのはもちろんのこと、部室やサークル室、トレーニング施設など、課外時間も仲間と楽しめる環境が整っていることも、大学の魅力といえるだろう。</p>
短期大学	<p>社会で活躍するのに必要な専門知識や技術を学ぶための実習設備が充実している点、特に女子学生にとって魅力的な環境が整っている点が大きな特徴。</p> <p>キャンパスの規模は大学よりも小さい場合が多いけれど、施設・設備の種類は、大学とそれほど変わらない。その中でも、コンピュータ室、LL (Language Laboratory) 教室など、実務的な能力を身につけるための実習設備が充実している学校が多い。さらに、おしゃれなデザインのラウンジや健康・美容を意識したメニューを用意するカフェテリア、女子学生寮を備えるなど、女子学生へのサポートが厚いことも短期大学に多い特徴だ。</p> <p>大学の「短期大学部」に進学した場合は、当然のことだけど、よりスケールの大きな大学の施設・設備を利用することができる。</p>
専門学校	<p>交通の便がいい学校が多いこと。どの学校も各業界の現場を再現したような実習施設を備えていること。専門学校の学習環境にはこんな個性がある。</p> <p>大学や短大に比べると学校の規模は小さめ。とはいえ、実習設備、図書室、学生食堂やラウンジなどの施設が整っている。</p> <p>なかでも特徴的なのは、各業界で実際に使用されている機器を備えた実習設備。例えば、トラベル系の学校には模擬ツアーカウンターが、調理系の学校にはレストランの調理場を再現したような実習室が設置されているように、ほとんどの専門学校には各業界でプロが仕事をしている現場と同様の環境が用意されているのだ。またそれらの設備を授業以外でも開放している学校も多く、空き時間を利用して自習することも可能だ。</p>
テーマ③	キャンパスライフ
大学	<p>クラブ・サークル活動が活発。クラブやサークルの仲間ができれば、キャンパスライフはもっと充実する！ 華やかな学園祭も大学生活の大きな楽しみ。</p> <p>クラブ・サークル活動は大学生活をよりエンジョイするための要素の一つだ。多くのスポーツ系、または文化系のクラブ・サークルが多彩な活動を展開している。高校のクラブにはない競技や趣味を楽しめる団体も多い。全国大会をめざす大人数のクラブから、趣味を楽しむ少人数のサークルまであり、その活動レベルもさまざまだ。</p> <p>華やかな学園祭も大学生活で見逃せないポイント。大学の学園祭が地域の名物になっていることもあるほど。実行委員として有名アーティストのライブやユニークなコンテンツを企画するのも、参加者として祭を満喫するのも、どちらも楽しい！</p>
短期大学	<p>アットホームで、学生同士が友情を築きやすい雰囲気を持つ短大のキャンパス。</p> <p>一方、他大学の学生と交流する機会もあり、合同イベントを企画して楽しむことも。</p> <p>なんといってもアットホームなムードが短大の大きな魅力。クラブ・サークル活動は大学同様に行われているけれど、各部員数は大学に比べて少ない場合が多い。そのためあまり派手な活動はないものの、人数が少ない分、仲間同士の結びつきはより強くなる。学園祭についても同様で、決して派手ではないけれど、学生同士の友情が深められたり、教授や学校職員と交流する機会を持ったり、という楽しみが短大の学園祭にはあるのだ。</p> <p>一方で他大学のサークルとの交流が盛んな学校も多く、キャンパス外の仲間とともに、サークル活動にはげむ短大生もいる。</p>
専門学校	<p>学内技術コンテストがあったり、専門分野に関連するクラブ・サークル活動が盛んだったり、専門学校には課外時間にも専門技術を楽しみながら磨ける機会がある。</p> <p>クラブやサークルは大学・短大に限定されると思う人がいるかもしれないが、専門学校のクラブ・サークル活動も組織整備されていて、競技別に対抗戦や全国大会が開催されている。また、スポーツ系の学校ならサッカーや野球、デザイン系の学校ならマンガやコンピュータグラフィックスというように、専門分野に関連したクラブ・サークルが各所で盛んに活動している。</p> <p>専門学校で開催されるイベントでユニークなのは学内技術コンテスト。ファッション系の学校がデザイン画コンテストを実施するなど、授業以外の場で学習成果を評価してもらえるチャンスに恵まれているのだ。</p>

次回は、テーマ別に比較していきます